

平成26年度
(第4四半期)

広貫堂グループ IR情報

株式会社 広貫堂

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

売上面では、119億7600万円となり前年同期比103.9%、計画比99.8%の実績でした。これは、売上構成金額の

大きいCMO事業が前年同期比118.3%と好調な伸びによるものです。

収益面では、経常利益は-3億4600万円で、前年同期比3億6400万円の減少、計画比5900万円の減少でした。これは、新規大型設備投資案件の顆粒ラインに販管費1億6800万円を計上したこと及び貸倒引当金、助成金分減少によるものです。

(事業運営面)

上記顆粒ラインは平成27年8月より生産を開始し、平成29年度より本格稼働を行い、年間800トン生産する計画になっております。

○ 課題への取組み

重点商品の一つとなっております、「透白美人」の新たな取組みを継続するほか、ショップグループでは新店舗拡大に向け事業を推進しております。

また、第4四半期に東邦ホールディングス株式会社と株式会社広貫堂の共同出資の新会社「Kokando and Kyoso Mirai Asia Pte.Ltd.」を設立し、アジア地域での事業拡大に努めてまいります。

○ トピックス、適時情報

1. イオンへ販路拡大、富山で展示商談会を行いました。
2. 山田特産加工組合との共同事業「健菜堂」がエゴマオイル「EBA OIL」を発売することを発表しました。
3. 小学館『美的 4月号』にて透白美人 enrichが紹介されました。
4. 北日本新聞発行フリーペーパー『02』に透白美人 enrichとやくぜんカレーが紹介されました。
5. 「富山みやげ」パンフレットに広貫堂製品が紹介されました。
6. 平成27年4月にイオンモール高岡に「癒楽甘(ユラクカン) 春々堂(チュンチュンドウ)」をオープンしました。
7. 平成27年7月には三井アウトレットパーク北陸小矢部に出店する計画です。

○ 業績の概況 (広貫堂・単体) (第4四半期、平成26年4月～平成27年3月) (千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	10,710,621	11,178,032	11,519,814	11,976,668
経常利益	-750,917	213	17,848	-346,387

広貫堂グループ

○ 連結経営成績に関する定性的情報

連結売上高は、148億9300万円と前期比103.6%でした。これはCMO事業の好調な伸びに加え、平成26年6月設立のシンガポール、マレーシアの現地法人を核とした海外事業の売上が増加したためであります。

収益面では、経常利益は-3億6200万円と前期より6億400万円の減少となりました。この要因の一つとしては、前期と比較し、グループ会社の経常利益において広貫堂薬品販売が8700万円、日本薬剤が4600万円、薬都広貫堂が2億70万円減少したことが挙げられます。

今後も海外事業において、新たな市場を更なる開拓を進める一方、売上高及び経常利益の目標達成のために、各グループ会社の課題解決と経費削減に一層努めてまいります。

○ 業績の概況(広貫堂グループ・連結)(第4四半期、平成26年4月～平成27年3月) (千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	13,588,073	13,961,731	14,379,106	14,893,416
経常利益	-467,561	-311,474	242,749	-362,065

平成26年度 (第4四半期) グループ各社	広貫堂グループ IR情報
-----------------------------	---------------------

薬都広貫堂 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)
 新製品を8品目導入しましたが、消費税増税の影響を受け、売上高は29億6200万円、経常利益はマイナスとなり、業績は売上・利益ともに前期を下回る結果となりました。

(事業運営面)
 平成27年度も引き続き厳しい事業環境が予想されますが、配置市場のニーズに応じた企画提案・販売活動を積極的に推進します。また、製品とサービスを融合させた、新配置ビジネスモデルの構築に取り組み、業績回復につなげてまいります。

○ トピックス、適時情報

平成26年度に新発売およびリニューアル発売した製品は下記のとおりです。

1. 第3類医薬品：1品目
2. 指定医薬部外品：1品目
3. 健康補助食品・化粧品等：6品目

○ 業績の概況 (第4四半期、平成26年4月～平成27年3月) (千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	3,590,646	3,610,771	3,379,067	2,962,086
経常利益	51,851	7,900	175,863	-24,893

日本薬剤 株式会社

○ 事業の概況 (事業運営、業績等の概況)

(財務面)
 天候不順などの影響によりドリンク剤の販売が振るわず、売上高は前年同期比100.1%となりました。経常利益は、販売関係費用が増加したため前年同期比26.4%となりました。

(事業運営面)
 ヘルスケア事業部では市場ニーズに応えた製品の開発を進めております。年間を通じて順次製品を上市しております。

○ トピックス、適時情報

平成27年4月より、食品事業の業務を集約し、お客様への更なるサービス向上を目的に食品事業部の業務を株式会社廣貫堂へ移管しました。今後は、ヘルスケア事業に力を注いでまいります。

○ 業績の概況 (第4四半期、平成26年4月～平成27年3月) (千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	4,227,858	4,460,165	4,880,008	4,885,415
経常利益	106,782	52,958	63,553	16,798

平成26年度
(第4四半期)

広貫堂グループ IR情報

グループ各社

広貫堂薬品販売 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面) 売上面では、前年同期19億5800万円に対し17億2100万円、前年同期比87.9%となりました。収益面では前年同期-9700万円に対し-1億8400万円にて推移しました。売上面での減少の要因は、①通販事業の広貫堂への移管及び一宮営業所の閉鎖にて-7900万円、②消費増税にて市場の冷え込みによる健康食品販売への影響が-5500万円、③人員減少等による減少が-1億200万円となっております。また収益面については、売上低迷が大きく影響した事、及び経費面では9月中間決算にて一部未払費用を計上、3月期末決算にて不良在庫の引当を行った事が挙げられます。

(事業運営面)

第3四半期より行っていた「全顧客の配置薬を店舗と見立てたマーケティング戦略」をより押し進め、毎日の取組結果の他、月次での取り組み状況を分析できる資料を全社員に開示し、日々の運用、商品開発などに活用できる体制を整えました。また配置販売業態改革の一環として、一般業者、地域団体との協業を推進するための契約を締結しました。

○ トピックス、適時情報

マーケティングの結果としての新規取扱商品として価格的に競争力のある商品として「黒ゴマセサミン」(瓶、パウチ)の販売を開始しました。

○ 業績の概況 (第4四半期、平成26年4月～平成27年3月)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	1,937,336	2,005,396	1,958,243	1,721,701
経常利益	-92,382	-185,092	-96,813	-183,930

トキワ広貫堂 株式会社

○ 事業の概況 (業績、事業運営等の概況)

(財務面)

売上面においては、前年同期比99.5%、計画比92.1%となりました。販売費及び一般管理費は、計画比108.9%前年同期比101.3%となりました。その主たる要因は、未払い費用のコスト計上及び貸倒引当金の基準変更によるもの及び特売費及び貸倒損失、交換薬損失が計画比より増えております。

又経常利益は、前年同期-2880万に対して-2890万円となりました。

(事業運営面)

平成27年1月より、インフルエンザ対策として抗菌スプレーを取扱い情報提供を行う一方、フォロー活動も行っております。

○ トピックス、適時情報

- 平成27年1月22日10時より第5回トキワ廣貫堂株式会社取締役会が開催されました。
- 平成27年3月24日10時より第6回トキワ廣貫堂株式会社取締役会が開催されました。

○ 業績の概況 (第4四半期、平成26年4月～平成27年3月)

(千円)

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
売上高	272,725	220,667	212,905	211,764
経常利益	-47,930	-37,319	-28,877	-28,991